石川県立美術館だより

BIJUTSUKAN DAYORI

第476号　令和5年6月1日発行

アンフォルメルの時代【油彩画・版画】

仏教美術【古美術】

勝本冨士雄《静かなる野性》
―「アンフォルメルの時代」より―

石川県指定文化財《光明本尊》個人蔵
―「仏教美術」より―

武の装いⅠ【前田育徳会尊經閣文庫分館】

四季の移ろいⅡ【近現代工芸】

優品選【近現代絵画・彫刻】

- 企画展Topics　三の丸尚蔵館名品展（仮称）
- ６月の企画展示室
- 学芸室の人々
- ６月の行事予定
- アラカルト　ただいま展示中

油彩画・版画（第3展示室）

アンフォルメルの時代
―1950～60年代の絵画―

6月3日（土）～6月25日（日）　会期中無休

アンフォルメルは、〈非定形〉あるいは〈不定形〉と訳され、形がないというよりも形式にとらわれないという意味合いが強い概念です。第二次大戦後フランスにおいて、評論家ミシェル・タピエは既成の概念にとらわれず全く別の芸術の創造を目指したアンフォルメル芸術を唱道しました。その動きはフランスのみならず、アメリカで同時代的に登場した抽象表現主義とも連動して、一九五〇年代の美術界を席巻し、わが国の画壇でも「アンフォルメル旋風」といわれるように、抽象表現が流行しました。その主な特徴は、幾何学的な「冷たい抽象」に対して、自己の思考を中断し、ただ素材のもつ特性に従って身振りの痕跡を画面に刻み付ける「熱い抽象」といえます。

石川の地では具象表現を追求する画家が多くみられますが、勝本冨士雄や藤井多鶴子は一九五〇～六〇年代に、アンフォルメルの作風を感じさせる絵画を制作しました。物質性を前面に押し出した重厚な絵具のマティエールや具象的なフォルムの意識を排除し身体の動きと連動した奔放なタッチから、当時の画壇に吹き荒れた熱風を感じとることができます。一方、宮本三郎や高光一也はこの時期、あくまで具象表現を基本としながら時代の動向を見据えた実験的な試みを行っています。宮本は油絵具の持つマティエールを工夫し、壁面のような硬い肌触りをみせる画面をつくり上げ、高光は色彩を抑制し対象のフォルムを抽象化して空間を構築しています。

本特集展示は、抽象表現が一世を風靡した時代に、石川ゆかりの画家が表現の上でさまざまに対応していった状況をご覧いただくものです。

勝本冨士雄《Work White-20》

古美術（第2展示室）

仏教美術

6月3日（土）～6月25日（日）　会期中無休

「仏教美術」と題し、絵画を中心に仏教に関連する作品を展示します。本展の作品の多くは、前半の密教関連と後半の浄土教・浄土真宗関連に分けることができます。

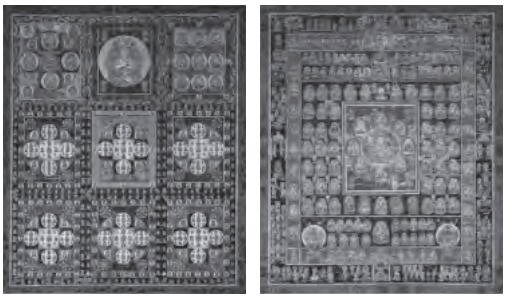
前半は密教、特に真言宗に関連した作品を中心に展示します。《両界曼荼羅図（りょうかいまんだらず）》（金蔵寺蔵）は、真言密教で最も重要とされる『大日経』と『金剛頂経』という二つの経典に基づき、修法という儀礼で用いられます。大幅に描かれた無数の仏たちの姿は必見です。

また、日本にはじめてマンダラをもたらし、真言宗の開祖としても知られる弘法大師空海を描いた《弘法大師画像》（長楽寺蔵）も数年ぶりに公開いたします。椅子の上に座り、右手に五鈷杵（ごこしょ）、左手に数珠をもつ「真如親王様（しんにょしんのうよう）」と呼ばれる一般的な形式で描かれます。

後半は浄土教や浄土真宗に関連する作品を集めました。来迎図は浄土教を代表する作品の一つです。本作から人々の往生への願いや故人への思いを感じ取っていただければと思います。

また、本年は浄土真宗の開祖・親鸞聖人の生誕八五〇年にあたります。浄土真宗で本尊として礼拝の対象となる阿弥陀の三種の名号を記した《光明本尊（こうみょうほんぞん）》（個人蔵）や、親鸞の生涯を描いた四幅対の《親鸞聖人絵伝（しんらんしょうにんえでん）》（専稱寺蔵）も展示いたします。

仏教美術作品の中には、文化財指定を受けた作品も少なくありません。県内に残る文化財の数々をこの機会にぜひご覧ください。また本展を通して、当時の社会情勢やその中で生きる人々の願いに、じっと思いをはせてみてはいかがでしょうか。



石川県指定文化財《両界曼荼羅図》金蔵寺蔵

前田育徳会尊経閣文庫分館

武の装いⅠ

6月3日(土)～6月25日(日)　会期中無休

毎年六月に開催される「金沢百万石まつり」にあわせて、前田育徳会尊経閣文庫分館では、この時期に歴代藩主の甲冑と陣羽織、加賀象嵌鐙を紹介する特集展示を行っています。今号と次号の美術館だよりでは、紹介する甲冑と陣羽織とともに、歴代藩主の人物像について、ご紹介します。

文禄二年(一五九三)に尾張国荒子に生まれた二代利長は、信長に仕えた利家が能登国の大名となったあと、越前府中城に入り、信長の四女永を室に迎えます。玉泉院です。利家没後も五大老の一人として秀吉に仕えますが、母芳春院を江戸へ差し出し、徳川秀忠の二女珠(天徳院)を異母弟の利常の室として迎えることで、徳川方につきます。嫡子はおらず、利常に慶長十年(一六〇五)に家督を譲り、富山城に隠居しました。

利長所用の鯰尾兜は、高さを誇る変わり兜です。先月の展示で紹介した《末森赴援画巻》中でも、利家の姿の横には、この兜を被る、あるいは脇に置く利長の姿が描かれていました。この時代の兜の形は、いわば「その武将の象徴」ともいえます。

三代利常の兜の前立は、三つ鍬形です。兜の鉢には細かな筋目がありますが、これは鉄片六十二枚をはぎ合わせた時にできる筋で、この枚数から六十二間筋兜と呼ばれます。

利常は、加賀能登越中の三国を治める大名として、農政に力を注いだほか、「文化大名」としても名を馳せました。茶道・漆芸・金工などに優れた人物を揃え、現在に至る金沢の文化の基礎をつくったのです。

《鯰尾兜》前田利長所用

近現代絵画・彫刻(第4・6展示室)

優品選

6月3日(土)～6月25日(日)　会期中無休

木々の緑もますます深まる季節となりました。

日本画分野は、夏を迎えるにふさわしい季節の優品を展示します。濱田観《初夏の花》は第六回日展に出品された大作で、初夏に咲き誇る立葵の群生を描いています。濱田は竹内栖鳳門下で、花鳥画でよく知られた画家です。前年の日展で特選となり、委嘱出品された本作は大胆で思い切りのよい筆致が見事です。その他、平桜和正《静映》、西出茂弘《木漏れ日》などさわやかな空気を味わってください。

彫刻と油彩画分野では、具象と抽象をテーマに展示します。彫刻分野で今回展示予定の吉田三郎《男立像》は筋骨たくましい男性の力強さに加え、穏やかな顔つきからうかがえる優しさを兼ね備えた作品です。写実的で堅実な作風を特徴としながら、人間の内面を探求することを目指した作者の代表作の一つです。

油彩画分野からは、南政善《バリ島の踊り》を紹介します。昭和四十九年(一九七四)にインドネシアを訪れた南は、独特なバリ島の踊りに触発され、多くの作品を描きました。本作では、人物を小さめに配置し、背景を具体的に描き込むことにより、空間に流れる音楽やエキゾチックな雰囲気まで表現しています。その他、埜谷次郎(のやじろう)《昇降―01》などの抽象作品も展示します。

濱田観《初夏の花》

近現代工芸（第5展示室）

四季の移ろいⅡ

6月3日（土）～6月25日（日）　会期中無休

今年度コレクション展示では四季の移ろいⅠ～Ⅳと題して、共通としたタイトルから、さまざまな切り口でお届けします。Ⅱでは「むし、うごきだす」をテーマに、蝶やバッタなど、むし揃いの展示室をお届けします。

モンシロチョウが舞う春の風景からはじまる展示室ですが、今回、むしを中心に展示しようと集めたコレクション作品は、むしが中心に据えている作品はあまり多くなく、草木、花、水、など、何かしらと一緒に季節を楽しむように配されています。モンシロチョウは春の草花であったり、バッタであったら夏の草であったり、一緒に描かれているものからも季節をお楽しみいただきたいと思います。

甲面には牡丹が大きく配され、側面へ流れている葉のよこに舞う蝶が美しい寺井直次《金胎牡丹蒔絵箱》、西伊豆に写生へ出かけた時にアゲハチョウが乱舞していたところに出会い、美しく澄んだ海底の紋と蝶を組み合わせて表現した堀友三郎《譜》、麻地に瓜・コオロギ・チョウ・トンボなどを図案風に構成し、その間に籬（まがき）を思わせる幾何学模様を絞りの技法で表現するなど、新鮮な感覚に満ちあふれている木村雨山《麻地友禅瓜模様振袖》ほか、木村雨山の画巻も展示します。

どこかにこっそりカタツムリも紛れ込んでいますが、そこはご愛敬ということで。むしが苦手という方もそれぞれの風景の一部として作品鑑賞をお楽しみいただきたく思います。

木村雨山《麻地友禅瓜模様振袖》

企画展Topics

三の丸尚蔵館名品展（仮称）

前期：10月14日（土）～11月5日（日）
後期：11月7日（火）～11月26日（日）

石川県立美術館と国立工芸館は今秋、国民文化祭の開催に合わせ、皇室ゆかりの美術工芸品などを収蔵・展示する宮内庁三の丸尚蔵館（十月一日より「皇居三の丸尚蔵館」に改称）の収蔵品による展覧会を開催します。

展覧会では、前田家から皇室への献上品や、石川出身の帝室技芸員や人間国宝による作品など、石川ゆかりの作家や作品にくわえ、皇室に伝わった名宝や名刀など、多彩な構成で、総計約一二〇点を展示します。

石川県立美術館と国立工芸館が共同で開催する初の展覧会となります。第一会場の石川県立美術館では、絵画や彫刻、書、刀剣を、第二会場の国立工芸館では、工芸品をご覧いただきます。

特にこれまで宮内庁による厳重な管理のもと、あえて文化財として指定されてこなかった三の丸尚蔵館収蔵品から、令和三年初めて国宝指定された高階隆兼《春日権現験記絵》、伊藤若冲《動植綵絵》、そして今年度に国宝指定される王羲之原跡《喪乱帖》、藤原定信《万葉集巻二、巻四残巻（金沢本万葉集）》が展示されることは大きな話題です。今秋の展覧会をぜひお楽しみに。

※作品によっては前後期入替があります。

国宝《動植綵絵 群鶏図》伊藤若冲

6月の企画展示室

第7展示室

風の会第7回展

6月1日(木)～5日(月)　会期中無休

春の風にフワリと浮かぶ雲。タンポポの綿毛がフワフワと飛び、モンシロチョウがヒラヒラと舞う。夏の河岸では飛び交うホタルの群れ。頬をなでるここちよい風等を考えている時に、ふう(風)を思い付き、また、全員の気持ちが一致しました。自由で新しい発想による絵画制作を目的として二〇一六年より石川県在住の作家をはじめ、モデルをお願いしている金沢美術工芸大学の学生も含めたメンバーで作品発表の機会を設けています。

抽象、具象を問わず、それぞれの視点や表現が個性豊かに現れていることと思います。ぜひこの機会にご覧いただき、ご指導いただければ幸いです。

◇入場無料

◇連絡先　江守マリ子　金沢市長町1丁目3－36
電話：076－221－3588
辰村浩子
電話：090－3297－5361

第7展示室

第36回

二科会写真部石川支部公募展

6月8日(木)～12日(月)　会期中無休

二科会写真部石川支部の令和5年度開催は「第36回二科会写真部石川支部公募展」で、2年に一度の開催になります。

石川県の写真愛好家から一般公募を募り写真技術の向上や写真鑑賞を、より身近に楽しんで戴きたくボリュウムアップをはかりました。出品点数は石川支部員47名＋一般公募より(25名)が出品します。石川支部公募展作品(自由課題)各1点展示＋昨年好評のテーマ作品(北陸の冬)と題して各1点設けて展示致します。

コロナ禍での第70回二科会写真部本展(令和4年度)開催の中で二科会写真部会員、会友(石川支部)10名の出品作品と入賞作品も同時展示となります。創造的写真表現で、二科会写真部全国最前線に並ぶ作品展示です。

石川の写真文化もデジカメ時代となり誰もが手軽に楽しめます。だからこそ、私たちは、写真表現の新しい可能性を追及し続けています。皆様の、沢山のご高覧を頂き、ご指導ご鞭撻を賜りますようご案内申し上げます。

◇入場料　無料(17時30分閉室)

◇連絡先　一般社団法人二科会写真部石川支部・
土田貴夫方
電話：076－251－0723

第8展示室

第12回

石川県日本画会

6月1日(木)～5日(月)　会期中無休

石川県日本画会はその趣旨を「日本画を志すものが、これまでの既存的概念や会派にとらわれることなく、自由で新しい発想によりそれぞれの日本画制作をすることを目的とし、会員相互の協力によってその研究・模索と石川県内での発表の機会を設け、自己の研鑽に努め、石川県の美術文化の発展に寄与する。」とし、十二回目の展示発表を行います。

若手からベテランまで年齢層は幅広く、モチーフも風景や静物、人物・動物や植物、具象や抽象など多岐にわたり、その視点や表現方法は個性豊かです。ぜひ、この機会に石川県内の日本画家の意欲作をご覧ください。

◇入場無料

◇連絡先　石川県日本画会事務局
金沢市小立野5－11－1
電話：076－262－3522　石崎誠和

第7・8・9展示室
第52回
日彫北陸展

6月23日(金)～27日(火)　会期中無休

日本彫刻会は、具象彫刻を中心に、造形芸術の向上に努めている国内では最大規模の彫刻公募団体です。本展は4月に上野東京都美術館で開催した第52回日彫展より芸術院会員をはじめ各種受賞作品と、会員から選抜された優秀作を基本作品とし、石川、富山の地元出品作を合わせ、約百点を展示します。ぜひご高覧いただきますようお願い申し上げます。なお、同時開催としてU―20日彫展、北陸日彫会特別企画発想展の作品を展示しますのでぜひ見学して下さい。

◇入場料　無料(17時閉室)
◇連絡先　北陸日彫会事務局　中口一也
電話：090－1392－3376

第8・9展示室
第45回
伝統加賀友禅工芸展

6月8日(木)～12日(月)　会期中無休

加賀友禅技術保存会は現在、友禅作家のうち正会員十名、参与会員三名が認定されており、加賀友禅の正統な技術保存と後継者育成のため、石川県の無形文化財の指定を受けています。その主旨を推進するため、毎年開催しているのがこの展覧会です。

第三十二回展より公募制を採用したことで、広く一般の方も出品できるようになりました。加賀友禅における新しい感性と創造的作品の数々をご覧いただきます。

※毎日午後一時三十分より作品解説があります。
◇入場料　四〇〇円(三〇〇円)高校生以下無料
※(　)内は二十名以上の団体料金
◇主　催　加賀友禅技術保存会
◇連絡先　金沢市小将町8－8
加賀友禅会館内 伝統加賀友禅工芸展事務局
電話：076－224－5511

情報図書コーナー&音声ガイド復活

新型コロナウイルス感染症対策のため閉室していた情報図書コーナーが四月一日(土)より、開室しました。コロナ以前と同様に、午後一時より五時までの間、どなたでもご利用いただけます。入室の際は手指の消毒にご協力くださいますようお願いいたします。

また、二階コレクション展の音声ガイド貸出しも四月二十三日(日)より再開しました。受付にてお名前とお電話をお書きいただければ無料でお貸出しいたしますので、お気軽にお申し付けください。

第7・8・9展示室
第109回
光風会展金沢展

6月16日(金)～20日(火)　会期中無休

光風会は文展、帝展、日展の中核として発展してきました。新しい時代の変化の中で芸術院会員を中心に、多彩な具象をめざす絵画部、堅実なモダニズムを追求する工芸部による活動が行われています。

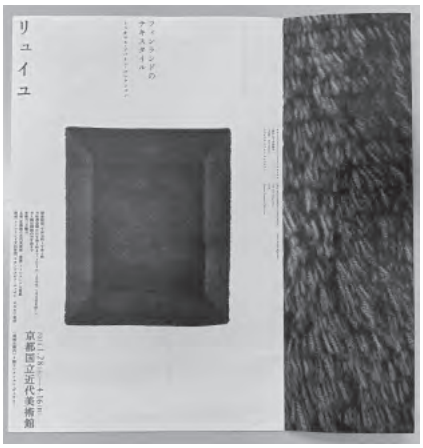
今回の展示では、地元作品三十四点に基本作品とあわせた約一〇七点を展示します。清新な感性を持つ作品をぜひご覧ください。

◇主　催　一般社団法人光風会、北國新聞社
◇入場料　一　般　当日七〇〇円　前売り五〇〇円
◇連絡先　東京都豊島区要町1－3－4　光風会館
石川連絡所：児島新太郎
03－3957－8009

学芸室の人々

深山 千尋（学芸主幹兼普及課長）

三月にフィンランドの織物「リュイユ」の展覧会を観覧しました。ホームページで見て三、四色の糸で織ったと思っていた作品は、実際には点描画のように色調が微妙に異なる七十色以上の毛足の長い織り糸を一本一本選んで織り上げています。色調の効果を追求し、奥行きや陰翳を醸し出した抽象画のような表現に、うっとり見惚れました。実は糸を染めて織ることに興味があった私ですが、近年は自分の中の織物の存在が小さくなっていました。しかし、この鑑賞で織物好きな自分とまた出会うとともに、今回の「リュイユ」のようなフィンランドの手工芸を見に行く旅を、是非実現させたいとも思いはじめています。



京都国立近代美術館「リュイユ」展 チラシ

前多 武志（学芸主幹兼学芸第一課長）

今から三十年ほど前、お金はないけど時間だけあった私は、西洋美術を見るために約一ヶ月間バックパッカーになることにしました。折しも阪神淡路大震災の直後で、ボランティアに行くべきだろうかと出発直前まで悩んだものです。あの時、ボランティアを選んでいたら、と時折考えるのですが、伊・仏・西の三ヶ国を巡り、足を棒にして現地で実物を見てきたことは、その後の大きな財産となっています。現地で見たルネサンス美術、とりわけミケランジェロから受けた震えるほどの感銘は、彼の作品が人間の計り知れない強さと気高さ、そして少しの脆さを宿していたからだと思うのです。

《サン・ピエトロのピエタ》ミケランジェロ

6月の行事予定

■土曜講座	13時30分～15時　美術館講義室　無料
10日（土）	「仏教絵画入門」　学芸員　鈴木　彩可
17日（土）	「コレクション第5展示室（近現代工芸）スライドトーク」 普及課担当課長　西　ゆう子

アラカルト ただいま展示中

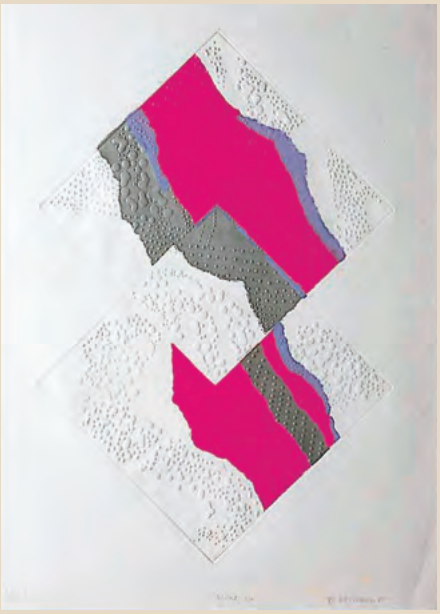
à la carte No.70

《Rising Sun》らいじんぐさん

縦74.5　横54.5cm
昭和42年（1967）

勝本冨士雄　かつもとふじお

大正15（1926）～昭和59（1984）



第二次世界大戦後、芸術家たちは新しい自由を得て自己を見つめ直す契機となり、美術の伝統から解放されて表現を根本から問い直すような挑戦を続けました。それは日本も例外ではなく、今回ご紹介する勝本冨士雄は、具象画家が多い石川県出身者にあって、一貫して抽象画を描き続けたパイオニア的存在です。勝本は自由美術協会を経てモダンアート協会の設立に参加し、同会の重鎮として活躍しました。油彩画では絵の具の激しいタッチをみせる表現主義的な抽象を経て、クールな幾何学的抽象に至りますが、作品は一貫して自然界のものを題材にデッサンで寄り添い、それを自然の形からアレンジして抽象化して表現しています。モチーフとしては、戦後の混沌とした時代の救いの存在だった太陽、そして、色彩では李朝白磁の憧れから白の表現にこだわりをみせています。

本作《Rising Sun》は版画作品です。版画分野の勝本は一九六〇年代に国内外の展覧会に招待出品し、モダンアートの国際的な旗手でした。金属版にドリルや金槌で穴や刻みを入れた版に、インクを付けずにプレス機で刷った凹凸のある作品で、そこに鮮やかな色彩が微妙なバランスで配置されており、クールで洗練された印象を持つ作品です。勝本は「板（はん）に穴を開け金槌で強く叩いてなすりつけたものが、紙にプレスされると、板の堅く重いイメージのものが、紙に写し取られることで軽やかになり、光をいっぱいに吸っているような感じになる。紙を通して光をまとったような、デリケートな面白さが魅力である。」と語っています。

次回の展覧会

令和5年7月1日（土）
～23日（日）
会期中無休

前田育徳会 尊経閣文庫分館	第２展示室
武の装いⅡ	名刀と刀絵図

第５展示室	第３・４・６展示室
四季の移ろいⅢ【工芸】	優品選【近現代絵画・彫刻】

ご利用案内

コレクション展観覧料
一　般　370円（290円）
大学生　290円（230円）
高校生以下　無料
※（　）内は団体料金
6月5日は第1月曜により
コレクション展示室無料の日

開館時間
午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間
午前10:00～午後6:00

6月の休館日は
28日（水）～29日（木）

広告
『石川県立美術館だより』に広告を掲載しませんか？
石川県立美術館友の会会員・石川県立美術館協力者・県内各行政機関及び文化施設・全国の美術館・博物館へ 郵送配布！ 2,500部発行
詳しくはお問い合わせください
WEBお問合せフォームはコチラ
株式会社ウィット Tel.072-668-3275 株式会社ウィット 検索
〒569-0071 大阪府高槻市城北町1丁目14-17-501　Fax.072-668-3276　HP.https://wi-t.co.jp/

石川県立美術館だより
第476号（毎月発行）
2023年6月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL https://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/

石川県立美術館は電源立地地域対策交付金を活用して運営しています。